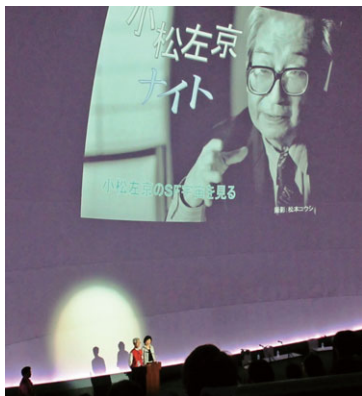


## 小松左京さんと大阪市立科学館

渡部 義弥



日本を代表するSF作家。「日本沈没」でおなじみの小松左京さんが亡くなったのは、2011年7月26日のことでした。それから一年。この7月21日に、小松左京事務所との共催で、没一周年記念イベント「小松左京ナイト」を行いました。

ところで、このイベントのプレスリリースをしたところ、何人かの記者の方から「なぜ、大阪市立科学館が、没一周年イベントをするのですか」と聞かれました。それに答えた話を、こちらにもご紹介します。

### 生まれたのは科学館の近所、終生大阪の作家

小松左京(本名は実)さんが生まれたのは、1931年。大阪市西区京町堀四丁目です。「御霊神社」の氏子で、お宮まいりにいき、お初食いは「美々卵」でした。

京町堀は、科学館の南側300mほどの場所で、靱公園にそって東西に長い番地です。現在の京町堀は三丁目までで、具体的な場所はわかりません。なお、小松さんは4歳で西宮市へ転出しますが、終の棲家となった箕面まで、ずっと大阪近辺に居住し、オフィスも福島区のプラザホテルに持って活動していました。

### 電気科学館を「大阪の誇りと自慢」

小松さんは、子どものころ、科学館の前身である大阪市立電気科学館にしばしば通っており、東京から来た親戚の子を案内して悦にっていたそうです。電気科学館の開館は1937年3月13日ですから、小学校にあがるころに開館したわけです。手塚治虫さんも電気科学館に通っていたわけですから、この記事の読者からどんな大物がでるか分かりません。小松さんのエッセイを引用します。

電気科学館と大阪城天守閣は、子供たちだけで行ってもかまわない施設だった。むしろ、地方から来阪したおとなたちを、案内する役をつとめ、中の展示をほこらしげに説明したりしたものである。——今にして思えば、電気科学館は、子供のための施設でなく、あくまで「市民のための」最新情報施設であり、年寄りや子供も楽しめるものもあるという所が素敵だった。

エッセイ「華やかでモダンなステージ/宝塚少女歌劇」より

## 大阪市立科学館のプランニングに意見

大阪市立科学館との直接的な関わりはどうか？ 実は、大阪市立科学館建設のさいにもご意見をいただいているのです。当時は、花博の総合プロデューサーをするなど大阪市と一緒に仕事をしていますし、開館当時から在籍している加藤館長や、小松左京さんの秘書の乙部順子さんの証言からまちがいないようです。委員など目に見える形ではないのですが、関わりを持っていました。

またこれは、側聞というレベルですが、小松さんは科学館の近隣を通るときに「もっといいものにしたいなあ」と語っていたそうです。その後、科学館もいろいろ変わりましたが、あの世でどのように思っていらっしゃるのでしょうかね。

## 小惑星「小松左京」の名称提案と、本人との出会い

「小松左京」は小惑星6983番の名前です。国際天文学連合が命名した正式名称です。手前味噌ですが、これを提案したのは私です。2002年のことでした。

小惑星の発見者は小林隆男さんという群馬県在住のアマチュア天文家です。小林さんは発見して名称提案権をもっている小惑星のいくつかについて、共通の友人の並木光男さん(故人)の紹介で、私に提案依頼をしてきました。このときに小惑星名として、Osaka大阪、Yotsubashi四ツ橋、Gakutensoku学天則などとなり、大阪を代表するSF作家として小松左京を提案したのです。もちろん、ご本人にも了解を得てです。下記命名提案文(英語)は、私が起草し、秘書の乙部さんのチェック・修正を経て小林さんから国際天文学連合に提出し、受理されました。

Sakyo Komatsu (b. 1931) is a novelist, essayist, reporter and playwright. One of the most famous science fiction writers in Japan, his best-known tales include *Bye-bye Jupiter* (1980) and *Japan Sinks* (1973).

この名称提案のキッカケとなったのは、1999年に科学館で行った「先事館シンポジウム」です。江戸時代の町民学者を輩出した先事館を記念したものです。出席したジャーナリストの松浦晋也さんから小松さんにつないでもらいました。

また、このとき知り合ったSF作家の堀晃さんたちが、科学館の資料を見るツアーを計画されて対応したこと。そのお返しとして、国立民族学博物館見学ツアーがあり、当時の館長の石毛さんの案内で、小松左京さんとお会いしたこともポイントです。それまでは「お話つくる人だよなあ」くらいだったのが、とんでもなく頭がよく「日本を代表する知」という強烈な印象を持つことになったのです。

以降、ついにもういちど、小松左京さんと会うことはなかったのですが、こうした縁を大事に思った人によってイベントが成立したのです。

わたなべ よしや(科学館学芸員)